はなく，相対的には保守党内に賛成が多いというものの労働党内にもかなりの賛成者がいるという。いずれにせよイギリス社会保障は重大な岐路に立たされているというべきであろう。

## 発言原稿丸読みすべからず

金田　伸二　（在ジュネーブ）

国際会議で何といっても語学にハンディキャップのある日本の代表は，発言しようと思う場合は大抵あらかじめ原稿を用意しておくものである。そして会議の空気をみて，タイミングよく発言の機会をつかむわけである。ところが，予め原稿を用意していても議論が予定していた方向と逆になってしまい，到々発言のチャンスがなかった，などということもあるものである。また，たとえうまく発言の機会をつかまえても，用意した原稿にその場で多少手を加えなければならないという場合が多い。

さて，さる国際会議でのこと。委員会の役員選挙も終ったばかりで，これから一般討論が始まるところであった。何人かが手を挙げて発言を求めていた。委員長はその中からわが国代表を真先に指名したのである。その代表から少し離れたところに座っていたわが代表部の書記官はハッとしたが時すでに遅かった。某代表は原稿を手にしてすでに読み始めていたのである。

「ミスター・チェアマン，私はすでに前の発言者が申し上げましたように，貴下が議長に選出されましたことに心からお祝を申し上げますとともに……」

実はこの代表はその委員会での最初の発言者だったのである。彼の原稿は2番目以降の発言を予想して準備されていたのだが，そのまま丸読みしてしまったのである。

## 編集後記

「海外社会保障情報」の創刊号には，お叱りと同時におほめの言葉も少なくなかった。おほめの言葉は割引いて，お叱りの言葉は何倍にも大きくして承わり，今後この小冊子を育てる参考にさせて頂くことにする。ともかく，このように言葉を寄せて頂くことは有難いことである。ここに第2号を世に送ることになったが，この小冊子は海外の主要新聞やその他の定期および不定期刊行物に掲載された，各国の社会保障制度および関連諸制度の動向をできるだけ多くの人々に伝えようと企図するものである。この小冊子の編集には，社会保障研究所所長と若干の研究員，および研究所専門委員から小山路男（横浜市立大学）と橋本正巳（国立公衆衛生院）の両氏が参加し，さらに，研究所の外部から田中寿（国立国会図書館），前田大作（全社協），上村政彦（健保連）の諸氏による御協力を得，研究所内外の方々に執筆をお願いした。これら外部の方々に，金田伸二（日本代表部在ジュネーヴ）と高島進（日本社会福祉大学・執筆当時在ロンドン）の両氏に寄稿をお願いした。これら外部の方の御援助をここに記し，厚く謝意を表する。今後この小冊子をより一層充実させるために創刊号と同様に，広く大方の御批判と御協力をお願いする次第である。　（平石）